学習指導要領の目標と内容の一覧

教科の目標

	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
「知識及び技能」	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
「思考力、判断力、表現力等」	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
「学びに向かう力、人間性等」	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学年の目標

	第１学年及び第２学年	第３学年及び第４学年	第５学年及び第６学年
「知識及び技能」	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
「思考力、判断力、表現力等」	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
「学びに向かう力、人間性等」	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕は、次のように構成されている。

〔知識及び技能〕		第１・第２学年	第３・第４学年	第５・第６学年
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の働き	ア	ア	ア
	話し言葉と書き言葉	イ・ウ	イ・ウ	イ・ウ
	漢字	エ	エ	エ
	語彙	オ	オ	オ
	文や文章	カ	カ	カ
	言葉遣い	キ	キ	キ
	表現の技法			ク
	音読、朗読	ク	ク	ケ
(2) 情報の扱い方に関する事項	情報と情報との関係	ア	ア	ア
	情報の整理		イ	イ
(3) 我が国の言語文化に関する事項	伝統的な言語文化	ア・イ	ア・イ	ア・イ
	言葉の由来や変化		ウ	ウ
	書写	ウ(ア)(イ)(ウ)	エ(ア)(イ)(ウ)	エ(ア)(イ)(ウ)
	読書	エ	オ	オ

<table>
<tr><th colspan="3">〔思考力、判断力、表現力等〕</th><th>第１・第２学年</th><th>第３・第４学年</th><th>第５・第６学年</th></tr>
<tr><td rowspan="15">Ａ 話すこと・聞くこと</td><td rowspan="7">話すこと</td><td>話題の設定</td><td rowspan="3">ア</td><td rowspan="3">ア</td><td rowspan="3">ア</td></tr>
<tr><td>情報の収集</td></tr>
<tr><td>内容の検討</td></tr>
<tr><td>構成の検討</td><td rowspan="2">イ</td><td rowspan="2">イ</td><td rowspan="2">イ</td></tr>
<tr><td>考えの形成</td></tr>
<tr><td>表現</td><td rowspan="2">ウ</td><td rowspan="2">ウ</td><td rowspan="2">ウ</td></tr>
<tr><td>共有</td></tr>
<tr><td rowspan="6">聞くこと</td><td>話題の設定</td><td rowspan="2">ア</td><td rowspan="2">ア</td><td rowspan="2">ア</td></tr>
<tr><td>情報の収集</td></tr>
<tr><td>構造と内容の把握</td><td rowspan="4">エ</td><td rowspan="4">エ</td><td rowspan="4">エ</td></tr>
<tr><td>精査・解釈</td></tr>
<tr><td>考えの形成</td></tr>
<tr><td>共有</td></tr>
<tr><td rowspan="6">話し合うこと</td><td>話題の設定</td><td rowspan="3">ア</td><td rowspan="3">ア</td><td rowspan="3">ア</td></tr>
<tr><td>情報の収集</td></tr>
<tr><td>内容の検討</td></tr>
<tr><td>話合いの進め方の検討</td><td rowspan="3">オ</td><td rowspan="3">オ</td><td rowspan="3">オ</td></tr>
<tr><td>考えの形成</td></tr>
<tr><td>共有</td></tr>
<tr><td rowspan="8">Ｂ 書くこと</td><td colspan="2">題材の設定</td><td rowspan="3">ア</td><td rowspan="3">ア</td><td rowspan="3">ア</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報の収集</td></tr>
<tr><td colspan="2">内容の検討</td></tr>
<tr><td colspan="2">構成の検討</td><td>イ</td><td>イ</td><td>イ</td></tr>
<tr><td colspan="2">考えの形成</td><td rowspan="2">ウ</td><td rowspan="2">ウ</td><td rowspan="2">ウ・エ</td></tr>
<tr><td colspan="2">記述</td></tr>
<tr><td colspan="2">推敲</td><td>エ</td><td>エ</td><td>オ</td></tr>
<tr><td colspan="2">共有</td><td>オ</td><td>オ</td><td>カ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Ｃ 読むこと</td><td colspan="2">構造と内容の把握</td><td>ア・イ</td><td>ア・イ</td><td>ア・イ</td></tr>
<tr><td colspan="2">精査・解釈</td><td>ウ・エ</td><td>ウ・エ</td><td>ウ・エ</td></tr>
<tr><td colspan="2">考えの形成</td><td>オ</td><td>オ</td><td>オ</td></tr>
<tr><td colspan="2">共有</td><td>カ</td><td>カ</td><td>カ</td></tr>
</table>

［第１学年及び第２学年の内容］

知識及び技能		(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 エ 第１学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第２学年においては、学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第２学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
		(2)情報の扱い方	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
		(3)我が国の言語文化に関する事項	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ｱ) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 (ｲ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ｳ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。 エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	(1)指導事項	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。
		(2)言語活動例	ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。
	B 書くこと	(1)指導事項	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
		(2)言語活動例	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
	C 読むこと	(1)指導事項	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
		(2)言語活動例	ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。

［第３学年及び第４学年の内容］

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">知識及び技能</td><td>(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</td><td>ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。
ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第３学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。
エ 第３学年及び第４学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。
カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。</td></tr>
<tr><td>(2) 情報の扱い方</td><td>ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。</td></tr>
<tr><td>(3) 我が国の言語文化に関する事項</td><td>ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。
ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。
エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
(ｱ) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。
(ｲ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
(ｳ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。
オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">思考力、判断力、表現力等</td><td rowspan="2">A 話すこと・聞くこと</td><td>(1) 指導事項</td><td>ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。
エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。
オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。</td></tr>
<tr><td>(2) 言語活動例</td><td>ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。
イ 質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。
ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B 書くこと</td><td>(1) 指導事項</td><td>ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。
オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。</td></tr>
<tr><td>(2) 言語活動例</td><td>ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。
ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C 読むこと</td><td>(1) 指導事項</td><td>ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。
エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。</td></tr>
<tr><td>(2) 言語活動例</td><td>ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。</td></tr>
</table>

［第５学年及び第６学年の内容］

知識及び技能		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 エ 第５学年及び第６学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ケ 文章を音読したり朗読したりすること。
		(2) 情報の扱い方	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ｱ) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 (ｲ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 (ｳ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	(1) 指導事項	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
		(2) 言語活動例	ア 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。
	B 書くこと	(1) 指導事項	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
		(2) 言語活動例	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。
	C 読むこと	(1) 指導事項	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
		(2) 言語活動例	ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。